

性同一性障害、教職員向け初の対応マニュアル

2013/4/20 18:55 | 日本経済新聞 電子版

心と体の性が一致しない性同一性障害(GID)の子供にどう接したらいいのか——。こんな悩みを持つ教職員向けの初のマニュアル「学校の中の『性別違和感』を持つ子ども」を、GID学会理事長の中塚幹也岡山大学教授が作った。

GIDについて、体の性が女性で心の性が男性の「FTM」と、その逆の「MTF」に分け、「環境が主な原因で発症するとは考えにくい」と解説。学校の役割を「教職員が知識を持ち、生徒が相談しやすく、在校生全体が多様な性を理解できる環境をつくる」と位置付けた。

当事者である子供の約9割が、性別の違和感を周りに伝えなかったとのアンケート結果や、思春期を迎えたMTFの子の「家族に男らしくするよう言われた」「水着が嫌でプールを休んだ」といった体験談などについて記述。2003年に成立した、戸籍の性別を変更できる特例法にも触れている。

学校側の対応として、体育や水泳で別室での着替えを認めた事例を紹介。名簿が男女別の記載になると性別の違和感が強くなる、などと指摘している。中塚教授は「性別に違和感を持つ小中学生は推定で千人に1人。相談があったときや、悩んでいる様子に気付いた際に活用して」と話す。〔共同〕